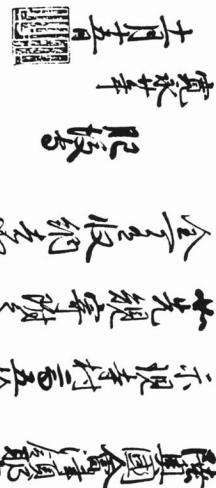


現寺村と改めたものを、古名に復したものである。
永和元年（一三七五）に源兼が示現寺の開山となつた際、熱塙村を示
い。示現寺は寛文年間（一六六一～一七三〇）に熱塙村と改められた。
十五日、示現寺に対して示現寺内において寺領五十石をあてがつて
解説 寛永二十二年七月四日、会津藩主となつた保科正之が同年十一月
註 ①保科正之 ②印文「正之」

示現寺



保科正之知行免行状

十一月十五日印②

寛永廿年

肥後守①

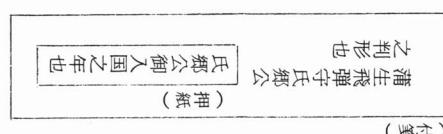
全可有収納者也

如先規寄附之訖

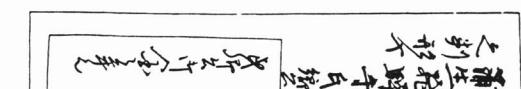
示現寺村高五拾石

陸奥國会津領耶麻郡

示現寺門前百三十一升中村松次と記されている。
石佐野九郎兵衛
示現寺百四十四石八斗四升内百石示現寺廿五石歸さし六介廿
なお、文祿三年（一五九四）七月の「蒲生氏高目録」では、
十五年後代のこの文書は「滋現寺」と表記している。
翁和尚が「慈眼寺」を「示現寺」に改めたとされるが、それより百二
年のである。『新編会津風土記』によると、永和元年（一三七五）、源
解説 蒲生氏郷が示現寺に対し、門前において寺領百石を寄進したも
註 ①蒲生氏郷花押



蒲生氏郷袖判寺領目録



天正十八年九月十二日

以上

百石者 於慈現寺門前

慈現寺領目録
(花押)①

